

昭和39年の東京オリンピック、その翌年に開催された岐阜国体の二つの大スポーツイベントに、各務原の人々がどのように関わったのかを、当館が所蔵する写真や婦人会誌、学校日誌などから振り返ってみましょう。

●東京オリンピック

昭和39年(1964)10月10日～24日、アジアで初めてのオリンピックが東京で開催されました。東京へ見に行けなくても、普及が進んでいた「テレビ受像機」を通じて、多くの人が熱戦に注目しました。

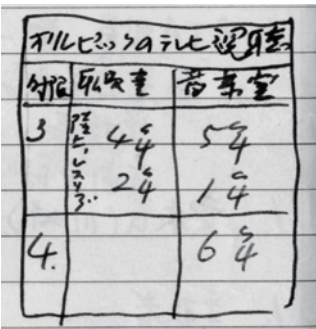
当時の学校日誌から、市内のある小学校では授業時間にオリンピックを観戦したことがわかります。



昭和40年製の白黒テレビ



昭和39年度鵜沼第二小学校日誌



日誌内にみえる学校でのオリンピック観戦

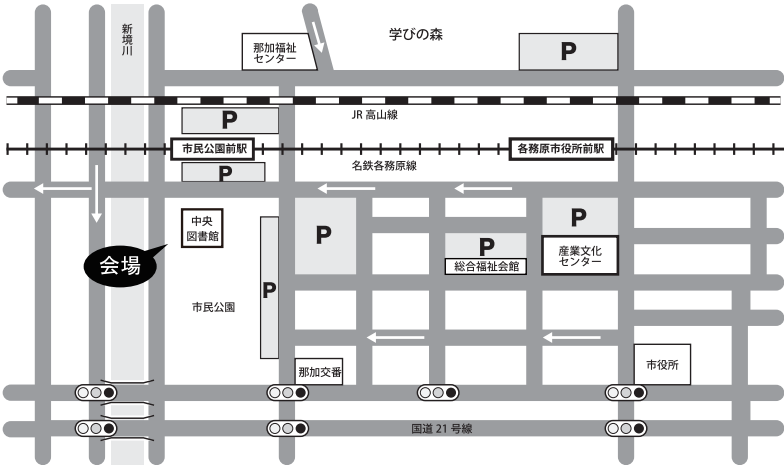
●岐阜国体

東京オリンピックの興奮冷めやらぬ翌昭和40年(1965)、岐阜県で第20回国民体育大会が開催されました。昭和38年市制施行の各務原市は、ラグビーの会場となりました。

県民全体で国体を盛り上げようという機運の中、市内の婦人会は歓迎のマスゲームや湯茶接待、参加選手の見送りなどに携わりました。市内の小中学生は、通過する炬火・大会旗リレーを沿道で応援したり、ラグビーの試合観戦に出かけたりするなどで参加しました。

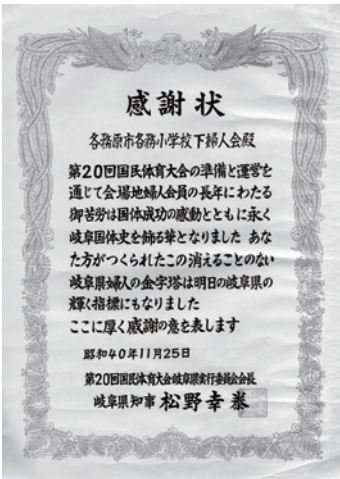


国道 21 号線を東へ走る大会旗リレー



会場へのアクセス

公共施設利用者駐車場 Pは3時間まで無料 3時間以降は100円/時



各務小学校下婦人会宛の感謝状